

第2部

空から見た昭和30年代・40年代初頭の苦小牧

1963（昭和38）年の開港を控えて、前年5月に市の人口は7万人を超えました。市制が施行された1948（同23）年の3万3千131人と比較して人口は14年間で2倍以上に増加しました。鉄北地区や糸井地区の区画整理が進み、住宅の新設や児童生徒の急増に伴い小・中学校の増改築が進みました。しかし、一方では全国的な傾向として、古き良き風習やくらし、故郷の風景が失われていきました。昭和30年代の苦小牧は、新しい時代への希望と古き良き時代への懐かしさが入り交じる時代でした。第2部では志方孝之（1914-1982 郷土貢献者）が撮影した昭和30年代・40年代初頭の空撮写真と現在の苦小牧を対比します。

展示のポイント

1人の写真家が撮影した苦小牧の財産を初公開

市街地中心部のほか、新しく区画整理が行われた西部地区の糸井、港湾築設による掘り込み土砂の埋め立てにより、宅地化が進む鉄北地区の緑町や美園町などの空撮写真を公開します。当時、大都市以外では空撮写真を定期的に撮影することは珍しく、現存する昭和30年代・40年代初頭の空撮写真は苦小牧にとって大変貴重な記録です。

鳥瞰図と航空写真を制作・撮影した2人

大正から昭和にかけて、活力あふれる地方都市を鮮やかな色彩で描き、エールを送り続けた「大正の広重」吉田初三郎と、今から60年ほど前に「我が街苦小牧」を撮影し続けた志方孝之。30歳違いの2人は、鳥たちのように空からの視点を縦横に駆使して街を記録しました。観察者であり記録者でもあった2人は時空を超えてつながっているように思えます。

展示資料紹介

東小学校と東中学校には、木造の小さな旧校舎と3階建鉄筋コンクリートの新校舎が混在している様子が見分かります。東中学校のグラウンドには陸上用のレーストラックが見え、苦小牧に本格的な競技場ができるまで、胆振地区の中学陸上競技大会の会場となりました。また、末広町と旭町の境には太平洋に注ぐ水路がありました。

今から58年前の現在の錦町・表町・若草町・旭町を空から写した写真です。東西に横切る国道36号と2条通に挟まれるように王子製紙の東部社宅が軒を連ねています。左上には市役所の旧庁舎、現在の市総合体育館の場所には市営球場が見えます。一方、錦町と表町を分かち駅前通に面して、王子娯楽場や鶴丸デパートなど、あの時代を知る苦小牧っ子にとって懐かしい建物を見ることが出来ます。



空撮写真「旭町」
1967（昭和42）年4月19日撮影
旧志方写真工芸社撮影 美術博物館蔵



空撮写真「王子製紙中部社宅上空から南東方向を望む」
1962（昭和37）年撮影
旧志方写真工芸社撮影 美術博物館蔵

現在の苦小牧



関連イベント 開催します！

◎展示解説会

担当学芸員が展示物や資料を解説します

日 2月8日(土)・9日(日)、3月7日(土)・21日(土)・22日(日)
11時～11時30分 直接会場へ **¥** 観覧料が必要

◎特別解説会

鳥瞰図資料を研究している北翔大学教授水野信太郎氏が展示資料について解説します

日 2月23日(日) 11時～12時、14時～15時 直接会場へ **¥** 観覧料が必要

◎体験教室

「苦小牧風景のプラ板ストラップを作ろう」

日 3月8日(日) 10時～12時
対 小学4年生以上（小学3年生以下は保護者同伴で可）
定 20人 申し込み順
持 タオル
日 2月12日(水)から電話で美術博物館